



# カトリック六甲教会 教会報



## カリタス釜石からの報告

特定非営利活動法人 カリタス釜石 副理事長 伊瀬

もう4年が過ぎたのか、まだ4年しか経ってないのかは、震災後20年を生きておられる皆様にはどのように感じられるでしょうか。

震災後4年目を生きている釜石では急ピッチで復興道路や復興公営住宅、復興商店街等、あらゆる建設現場に「ひと・もの・かね」が集中しているように感じます。このプロセスは復興には決して欠かせない重要な要素です。「復興」という言葉を切り取って秤にかけるなら、おそらく最も可視化された単位で測れるのが都市整備計画の分野と言えるでしょう。しかも一体何に起因するのか、同時に混在する深刻な人材不足や資材の高騰。そんな中、世間一般から言われているのは「釜石は復興が早い」のだそうです。「目に見える形」という「からくり」が見て取れる一例です。

一方、私が現地で見ているのは、可視化できないプロセスです。簡単には拭い去れない悲嘆であり、生きるものの現実です。顕著なのは「復興格差」とでも言うべき個人差。就労や住居等における自立再建の目途が立っている住民とそうでない住民。両者の間には、目に見えない厚い壁で隔たれた境界線が見え隠れします。この壁は仮設住宅でのサロン活動にも影響を及ぼしています。ある日突然、どちらかの住民がサロンに来なくなる。または、その対象者が居ない時に「うわさ話」で持ち切りになってしまう場面も増えているようです。長引く仮設住宅での生活による過度のストレスからか、折角始まった新たな人間関係に亀裂が生じることもあります。いくつかの仮設住宅では自治会が崩壊しました。さらには、この頃になって急に体調を崩して入院するケースも見られます。多くの被災者が疲弊しているのです。また、既に完成入居済の復興公営住宅においても、自治会形成が優先課題となっています。外部や行政との接点となる住民の中核が確定しないうちに、様々な生活上の問題が生じてくる。そうなるに益々その引き受け手を見つけるのは困難になってしまうのです。自治会抜きでは外部との接触が希薄となり、結果として孤立化が加速し不安定な生活を余儀なくされてしまいます。孤立は孤独を生み、生きる希望さえも見失ってしまう危険性が高いのは周知の如くです。とどめのように折り重なる少子高齢化は復興の出口を塞いでいるかのようです。

官民の連携・協働による自治会形成支援は今後の支援の重要課題の一つでしょう。

カリタス釜石は「いのち・よりそい・うけいれ、つなぐ」ものとして、常にいのちを最優先に支援するNPOでありたいと願っています。皆さんと繋がりながら、諸聖人の交わりの中で・・・。

(特定非営利活動法人カリタス釜石 <http://www.caritaskamaishi.com>)



教会クリスマス会



子供クリスマス会



お正月・手芸用品展示会場

## 福島訪問からの観想

中川

2012年から大船渡、陸前高田、気仙沼で3年間のボランティア活動をさせて頂きましたが、被災者の方々が自立再建する生活支援から変遷する時期を迎えたとの思いから、オルゴールコンサート開催を最後に一区切りつけました。

「ひょうご震災記念21世紀研究機構」の報告書の中に「**福島の被災者とは誰か**」とありました。原発事故という経験の蓄積のない災害に起因している、また、「風評被害」といわれるような目に見えない被害も様々な形で存在している為、「福島の生活復興」を明確に特定できないのでは？

では、「福島の被災者」はどこにいるのかの問いかけが必要だと思います。それは、原発事故によって被害を受けた人という広い意味で捉えているかによっても、違ってくるのではと感じております。

福島県は、浜通り、中通り、会津と山脈を挟んで生活習慣、文化、人々の気質も異なっています。それぞれの小教区が独自なかかわりをされていますが、県全体としてつながりの線、全国とつながりの面と支援体制となっているかといえば疑問が残ります。

大船渡ベースでお世話になった野上シスターから、それぞれの人の状況、必要性にどのように応えたらよいか福島デスクで試行錯誤しているので、手伝ってもらえないかと誘われ、現在に至っております。

野田町教会が、仮設住宅の訪問活動を始めるにあたり、「難民を助ける会」の相馬事務所責任者横山女史の紹介で、浜通りの山奥にある飯館村からの避難者の仮設住宅の一つに、足湯とアロマハンドトリートメントの出前に出かけました。開始時間前から外で座っている男性に声かけをしましたが、約2時間黙って寄り添っていました。ようやく勇気をだして集会室に入ってくれましたが、何となくそっぽを向いて無表情だった彼が、終わりぐらいにニコッと顔にゆるみが出て、「ここがしびれる」とボソッと話してくれた一言が、とても貴重な言葉に聞こえました。

こういった活動が回を重ねることにより、一人でも多くの人の顔に、心の緩みをもたらされると有難いなと感じました。

福島で被災者の心に関わっていければと、心理士としての能力アップへ具体的な行動を開始しました。また、田村市船引町の有機農業の方々が、自然の恵み(いのち)を消費者に届けようとされている活動を支援する活動母体として、「NGOいぶき宿」を立ち上げました。



## ナルドの花たより

四旬節は、全教会、各共同体、そして信者一人ひとりにとって心を新たにするときです。それは、とりわけ「恵みの時」(二コリント 6・2) です。神は、ご自分がまだお与えになっていないものを、わたしたちに求めることはありません。「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです」(一ヨハネ 4・19)。神は、冷淡なかたではありません。神はわたしたち一人ひとりを心に留めておられます。そして、わたしたちを名前で覚えていて、わたしたちを気遣い、わたしたちが神から離れてしまったときはいつでも探してくださいます。

神は一人ひとりのことを心にかけておられます。神はわたしたちを愛しておられるので、わたしたちに起きることに心を配らずにはられません。わたしたちは通常、自分が健康で快適に過ごしているときには、他の人々のことを忘れていきます(父なる神とはまったく違います)。他の人々の問題や苦しみ、彼らが耐え忍んでいる不正義などに関心を示さず、わたしたちの心は冷たくなっていきます。自分が程良く健康で快適であるうちは、不幸な人々のことは考えません。今日、無関心というこの利己的な態度が、無関心のグローバル化といえるほどに世界中に広まっています。わたしたちは、キリスト者としてこの問題に取り組まなければなりません。

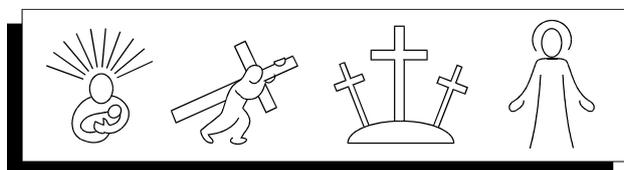
神の民は、神の愛に心を向けるとき、歴史の中で絶えず生じている問題への答えを見いだします。もっとも緊急を要する問題の一つであり、わたしがこのメッセージの中で考えたいと思っているのが、まさにこの無関心のグローバル化です。

わたしたちキリスト者も、隣人や神に対して無関心でいたいという強い誘惑にかられます。したがって、声を上げて目覚めさせてくれる預言者たちの叫びに、四旬節のたびにもう一度、耳を傾ける必要があります。神はこの世に対して冷淡なかたではありません。神は、わたしたちを救うためにご自分の独り子をお与えになったほどにこの世を愛しておられます。神と人の間の門、天と地の間の門は、神の子が人となられ、この世に生き、死に、復活されたことのうちに完全に開かれます。教会とは、みことばを告げ知らせ、秘跡を行い、愛の実践を伴う信仰(ガラテヤ 5・6 参照)をあかしすることによって、この門を開いたままに保っている手のようなものです。しかし、この世は、自らの中に閉じこもり、神が世に来られ、世が神のもとに行くための扉を閉ざしてしまいがちです。ですから、その手、すなわち教会は、たとえ拒否されたり、押しつぶされたり、傷つけられたりしても、決して驚いてはなりません。

したがって、神の民は、無関心になったり自らの中に閉じこもったりしないように、心を新たにしなければなりません。わたしは、心を新たにすることについて考えるために、聖書の三つの箇所を示したいと思います。

1. 「一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しむ」(一コリント 12・26) — 教会
2. 「お前の弟はどこにいるのか」(創世記 4・9) — 小教区と共同体
3. 「心を固く保ちなさい」(ヤコブ 5・8) — 一人ひとりのキリスト者

カトリック中央協議会 ホームページより



## 2014 年度小教区拡大評議会（2 月 7 日）のご報告

2 月 7 日（土）10 時よりイグナチオホールにて、評議員他計 36 名の出席にて、2014 年度小教区拡大評議会が開かれました。

まず、2015 年度教会年間行事カレンダーの最終調整と確認が行われました。来年度から、専門部会の時間の重複を避け、評議会、地区役員会、部会開始時間は日曜日の場合、原則午後行われます。

5 月には東ブロック合同堅信式（24 日 10 時 神戸中央教会 前田万葉大司教）、神戸地区大会（31 日 13 時 六甲学院）が行われます。またこれまでの小教区評議会年次報告会を中止し、今年度からは財務報告会（6/14）が開かれます。また 例年通り、納涼の夕べ（8/15）、チャリティーバザー（11/8）、大掃除（11/14）などの日程も決定されました。その際にはこれまでのように、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

クリスマス夜半ミサの時間の変更、元日ミサ 0:00 を止めて、感謝のミサ 12/31 11:00 などの変更もありますのでご注意ください。

この 3 月 21 日より地区連絡網とともに配布されます「2015 年度の行事予定表」は、行事予定と役員表の記載だけになります。したがって、2014 年度の「しおり」にある「秘跡」の解説、「教会の組織」図、連絡先等がありません。これらの資料をお手元に残す意味で、この「2014 年度版しおり」を廃棄せずに保存されてご利用下さいますようお願い致します。

次いで、評議会予算の提案が行われました。典礼部内のオルガンチームから「音楽チーム」への構成変更にとともなう消耗品費（楽譜など）のコード変更、合同堅信式の費用の追加、婦人会予算の新設など討議され確認しました。予算は昨年度に比べて大きく減額になっていますが、これは今年度、主聖堂屋根などの「大規模補修工事」が無事終了しましたので、施設管理部予算が減ったためです。

第 4 回の小教区評議会（12/14）後の報告として、神戸地区評議会（内容は「つながり」を参照下さい）、典礼部からクリスマス関連行事について、地区会から 1 月 11 日の新成人祝福式と教会新年会についての報告がありました。

施設管理部からは、鐘楼 62 年、信徒会館 44 年、主聖堂 20 年と築後年数を重ねており、空調や防水などのメンテナンス、設備・備品などに、今後 10 年ほどの間の修理営繕費用の予算を準備しておく必要があるとの見通しが報告されました。今後、準備資金として積立を行うなどの対応を考えていく必要の確認と、備品を丁寧に扱うこと、スイッチの管理に配慮していくなどの要請がなされました。

このあと、各部会・信徒会・地区会の新年度役員の紹介と各部会からの報告がありました。なお、これからはご復活をもって役員交代の時期とします。

最後に参加者の方々からご意見をお聞きし、主任・助任 両司祭からのお話があって、祈りのうちに拡大評議会は終了しました。

次回の小教区評議会（2014 年度 第 5 回）は 3 月 15 日（日）11:15 からの予定です。

（評議会議長 飯塚）



- 1 “教会新年会、新成人お祝い”について（東灘北1地区）
    - ・会場のレイアウトも工夫され、美味しいお料理とクイズ対抗戦もあり、大勢の方々の参加で盛り上がり、楽しい新年会であった。
    - ・新成人の皆さんからは夫々に頼もしい決意を堂々と述べていただいた。
    - ・割りばし、紙容器などは在庫があるので行事の際には在庫優先でお願いしたい。
  - 2 教会行事の担当企画チームの確認
    - ・2015年度教会掃除当番表作成と印刷（小田さん、米村さん、中川さん）
      - ・2015年度教会行事日程と各地区連絡網の配布（蛭田さん、吉村さん）
    - ・4月4日（土）復活徹夜祭ミサ（19：00）後のお茶（担当：東灘南地区）
    - ・教会掃除当番表は教会報3月号に差し込み配布
      - ・教会行事日程・各会役員一覧と各地区連絡網は3月21日（土）から配布
  - 3 ご復活のお祝いとコリンズ神父様の送別会
    - 4月5日（日）10時ミサ後 イグナチオホール、イグナチオ喫茶チームと地区役員会が担当する。
  - 4 共同祈願文の作成（典礼部より依頼）
    - 3月 灘西・中央、4月 東灘北1
  - 5 2015年度の地区会役員
  - 6 小教区拡大評議会 2月7日（土）10：00～  
地区会役員は新旧共に出席をお願いします
  - 7 2015年度地区役員会開催日
    - ① 4月12日（日） ② 5月30日（土） ③ 7月19日（日） ④ 9月6日（日）
    - ⑤ 11月14日（土） ⑥ 2月7日（日） いずれも開催時間は12：30～但し、5月30日（土）は10：00～、11月14日（土）は教会大掃除終了後
- ※ アルフレド主任司祭から  
神様の力を願い福音の喜びを感じ、地区会の活動を通して信仰の生き方を深め、六甲教会共同体を力強いものにして行って欲しい。今回退任される地区役員の方々、ご苦労様でした。感謝します。 次回地区役員会 2015年4月12日（日）12：30～

<行事報告>

**高山右近殉教400年記念ミサ（2月3日）**

2月3日（火）、ユスト高山右近帰天400年の記念ミサに与ってきました。個人的な話になりますが、私が生まれたのは高槻、ちょうど右近の列福運動が始まった頃です。両親が結婚して最初に住んだ場所だったのですが、偶々その地を選んだのは父母それぞれの仕事に交通の便がよかったからとのこと。私は生後しばらくして母の実家のある京都へ、その後は転居しているので、実際に高槻で暮らしたのはごくわずかです。高山右近の名前も日本史の教科書で見た記憶が少しだけという程度でした。それが、洗礼を授かるきっかけをくれた人の影響もあって、キリシタンの歴史に関心を寄せるようになり、そういえば自分の生地って…と改めて調べてみたところ、カトリック高槻教会（右近の時代の教会とほぼ同じ場所にあるらしい）のすぐ近所であったことに気づきました。



400年記念ミサ風景

高山右近、野心とそれに見合うだけの十分な才覚も持ち合わせていたのであろう血気盛んな若武者が、試練を経て少しずつ神に引き寄せられ「義の人（ユスト）」となっていく。そんな彼が領主となった高槻では、領民の三分の二がキリシタンになったといひます。イエズス会の巡察師ヴァリニャーノが「まるでローマにいる思いがした」という 1581 年の盛大な復活祭、そこに満ち溢れていた喜びの光を思うと眩惑されそうになります。信仰の喜び。

荒木村重事件の際には、高槻城が「祈りの城」になったといひます。その祈り込められた土地で、かつて右近や父ダリオや人々が信仰を生きた場所で、私自身もこの世に生を受け、いつの間にか同じ信仰をいただいていると思うと、否が応でも想像をたくましくしてしまいます。少なくとも、母の胎内で教会の鐘の音は聴いていたかもしれないなど、一人でうれしがっている次第です。

高山右近を知るにつれ、その人生は戦乱の世に対する福音の戦いだったのだと、やはり超一流の武将だったのだと思うようになりました。

秀吉の伴天連追放令によって流浪の身となった右近が、熱い思いを述べた言葉が残っていますが、「秀吉」をののしることは一切なく、あくまでも「悪魔」との戦いだと、「人をこのような破滅に陥れる悪魔との戦いであり、この戦いで死ぬことは、キリストとともに勝つことを意味しているのです」と語ったそうです。

先だつての日本人質事件も、十年前なら考えもしなかつた言説がまかり通っている今の世の中も、最近はうんざりする事ばかりで、ニヒリズムに囚われそうになりますが、それこそ悪のしかける罠なのでしょう。「悪魔との戦い」という右近の言葉が、切実な色をおびて心に響いてきます。

自分の中の暗闇も、この世の闇とも、戦うことは困難を極めるのですが、マリアさまに心を合わせ、微力ながら捧げる祈りを使っていただき、主とともに戦う。そこは共同戦線をはれるのだ、そういう戦い方ができるのだ、そうであるならば諦めている場合ではなからう。右近の言葉が、そんな気持ちを奮い起こしてくれます。

個人的な思い入れもあるのですが、それ以上に今の時代に高山右近のような助け手は日本に必要だという思いを記念ミサで新たにしてきました。一日も早い列福を待ち望んでいます。

(マリア・ピエラ)



## 《 各 部 だ よ り 》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

### 小教区評議会

3月15日(日) 11:15 小教区評議会

### 三日月会

3月16日(月) 14:00 ミサと懇親会

### 教会学校

3月14日(土) 終業式・卒業式・卒業合宿

3月15日(日) プチトマト公演

3月21日(土)～22日(日) 練成会

### 広報部

4月4日(土) 10:00 教会報4月号印刷

### 宣教部

3月22日(日) 部会

### 中高生会

3月26日(木) 練成会

### 施設管理部

3月22日(日) 部会

### 典礼部

3月29日(日) 聖週間典礼奉仕者説明会

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

★社会活動部より★

- 3月4日(水) 10時 手芸の集い(第1・2会議室) どなたでも参加ご自由です。  
3月9日(月) 9時30分 ともしびケーキ作り(イグナチオホールお台所)  
3月14日(土)10時 炊き出し(イグナチオホールお台所)  
小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。  
3月15日(日) ふれあい広場(イグナチオホール) はお休みです。  
3月19日(木) 14時 ベタニアの集い(イグナチオホール) ミサと茶話会



◆教会学校劇団プチトマト公演

3月15日(日) 10時ミサ終了後、イグナチオホールにて  
「心はいつもあおぞら」 2幕

人は、どんな時強くなれるのでしょうか。力が強いとか、知恵が回るとか、そんなこととは違う強さがあるような気がします。厳しい状況に置かれても、頑張る少女たちの姿の中に、本当の強さを見つけて下さい。みなさまの、ご来場を、お待ちしております。

教会学校劇団プチトマト 阿部



◆初聖体・祝福式

4月12日(日) 10時ミサにて、新3年生7人が初聖体・祝福式を受けます。今年は嬉しいことにその内2名が同じミサの中で洗礼に与り、初聖体を受けます。

初聖体は子ども達が成長する過程としてとても大きな節目のお祝いです。

10時ミサの後、お祝いのパーティーもありますので、教会の皆さまも是非一緒にお祝いください。

<<お願い>>

初聖体・祝福式パーティーのためのジュースやお菓子、手作りケーキの寄付を募ります。

ジュース・お菓子はリーダー室前に箱を用意いたしますので、未開封のもので賞味期限が4月12日以降のものを3月7日～4月5日の間に、また手作りケーキは前日午後か当日ミサ前に、リーダー室までお持ちください。よろしくお願い致します。

2年生担当リーダー 吉村



【 春の墓参 3月8日(日) 】

10時のミサ後、11時20分頃長峰霊園 教会共同墓地で行われます。

墓参の祈り、納骨式の司式は主任神父が行います。個人墓地の利用者も共同墓地の前で式に参加ください。式後、神父は全ての個人墓地を巡り祝福をされます。各々の墓地にてお待ちしております。

なお、供花や供物はそのまま放置されますとごみになってしまいますので、お参り後お持ち帰りくださいますようお願い致します。

## <ベーキ神父様追悼ミサのご案内>

1月26日に帰天されましたベーキ神父様の追悼ミサをおこないます。

3月14日（土曜日） 10:00 主聖堂

### ベーキ神父様を偲ぶ

自国の風土と民族の生活に根ざした心の底からのハンガリー人であり、同時に日本と日本文化を深い心で愛された日本人でもあるゲツレルト・ベーキ神父様が帰天されました。

私がベーキ神父様にお会いしたのは、大学生になったばかりの時でした。当時の私は、激的な価値観の闘争のただ中において、神なき無神論者の悲惨さに押し潰されながら、出口のない暗闇の中を彷徨っていました。私の不躰な質問に対して、顔に微笑みを浮かべて冷静かつ的確に人生には意味が見いだせると、力強く導いてくださいました。一筋の希望の光が見え始め、以来半世紀にわたりご指導を受け、今日まで生きることができました。不肖の弟子たる私の人生に何ほどの価値があるかは分かりませんが、ただ言えるのは、もし神父様にお会いできていなければ、今日はなかったことは確実です。生きる日の限り感謝いたします。

もう直接お目にかかれないことは、残念で仕方ありませんが、不思議に哀切の気持ちはありません。私のすぐ傍らに立っておられて、以前と同じように導いてくださるような気がしています。

神父様は次のように教えてくださいました。神の慈悲深い聖心の偉大なご計画を知ってこれに与り、自分に当てられた分担を立派に果たして、その御父のもとに帰ることこそ、人生のこの上ない素晴らしい目的であり、意味である。御自身、その通りの人生を歩まれました。

〔私は復活であり、いのちである。私を信じる者は、たとえ死んでも生きる〕 今こそこの言葉の意味を理解されているのではないのでしょうか。 (志垣)

#### ■ ベーキ神父略歴 ■

- 1924年6月5日 ハンガリー ブタペストに生まれる
- 1943年8月14日 イエズス会入会（ハンガリー）
- 1954年8月23日 司祭叙階（オランダ、マーストリヒト）
- 1955年9月30日 初来日 1960年8月15日 最終誓願（広島）
- 1959年～1966年 神学生勉強担当（広島・長束）
- 1960年～1966年 コングレガチ・マリアーナ助言者（山口・島根地区）
- 1966年～1968年 ハンガリー語雑誌編集（オーストリア）
- 1968年4月12日 再来日
- 1968年～1991年 六甲教会（神戸）で教会司牧
- 1974年～1991年 英知大学神学教授（大阪）
- 1991年～1997年 長束黙想の家責任者（広島）
- 1997年9月2日 ハンガリーに戻り、セケド他で司牧
- 2015年1月26日 帰天（ブタペスト）



## ＜ご復活のお祝いとコリンズ神父様の送別会のご案内＞

4月5日（日）10時ミサ後 イグナチオホール

ご復活のお祝いとコリンズ神父様の送別会を開催いたします。  
イグナチオ喫茶チームと地区役員会が担当いたします。大勢の方の参加をお願いいたします。六甲教会のサンタさんがいなくなり寂しくなります。  
教会学校の子供たち、中高生会のみんな、沢山集まって下さいね。



神戸地区大会 2015 イベント

### 「教えて！ 人生の大先輩！！

### 出場者募集

5月31日（日）（於：六甲学院）に開催される神戸地区大会のイベントでは、人生の大先輩に登場いただき、信仰との出会い、人生を元気に送る秘訣、趣味のお話などなど、たくさんのお話を聞きたいと考えています。次のような方を募集しています！

#### 原則75歳以上の方

#### 何か舞台上で披露できる趣味をお持ちの方

（例：フラダンス、社交ダンス、エアロビ、歌など…….）

※グループで参加していただくのも大歓迎です。

※時間は7分程度です。

※発表後、司会者が少しインタビューをさせていただきます。

#### ②のような趣味はないが人生の様々な話しならしてもよいという方

※当日は各教会の代表者全員に舞台上に上がっていただき、司会者が質問をし、それに答える形で進めます。

※質問は前もって出場者にはお知らせします。

出場していただける方は、各教会の地区大会実行委員に声をかけてください。

六甲教会実行委員 松平麻也さん 携帯番号 090-3678-7671

#### ＜同時募集＞

「先輩に聞いてみたい質問」を募集します。こちらも地区大会実行委員にメモで渡していただくと助かります。このチャンスに聞いてみたいことをどしどしお寄せ下さい。すべては聞けないかもしれませんが、その時はお許し下さいね！

## 共同回心式変更のお知らせ

3月22日(日)10時ミサ中に共同回心式を予定していましたが、典礼(ミサ)本来の姿を尊重すると共に、ゆるしの秘跡に一人ひとりが余裕を持って与れるために、今年の聖なる三日間の心の準備としてのゆるしの秘跡は、一斉ではなく、四旬節中の土曜日18時30分、日曜日7時15分と9時30分に時間を設けますので、早めにお与り下さい。

### <重要なお知らせ！>

#### 教会のしおりについて

- 2015年度から教会のしおりの配布は行いません。
- 2015年度行事予定表を3月21日(土)～4月12日(日)の主日のミサ前後に配布致します。
- 2015年度小教区評議会役員／評議員名簿、地区会役員名簿も同期間に配布いたします。
- 役員名簿／行事予定表以外の教会に関する情報は2014年度教会のしおりをご覧ください。
- 2014年度教会のしおりは処分なさらずに大切に保管ください。

#### 『朗読の集い』発足に向け準備開始

この4月より「朗読の集い」が始まることになりました。関心を持たれた方は、一度世話人に声をかけて下さい。男女、年齢、信者・未信者、国籍を問わない集いです。

##### ・集いで何をするのか：

自分の声を出して読みたい文(聖書、詩、エッセーなど何でも)を各自持参し、自分の朗読を他人に聞いてもらい、聞いてくれた人の朗読に耳を傾けます。

##### ・集いの日時、場所：

毎日曜 8:40～9:25の45分間(二つのミサの間の時間、二つのミサがそろわない日は休み) 場所は信徒会館会議室

##### ・世話人：塚崎&阿部

- ・考え方：言葉は人にとってかけがいのない宝です。音読は脳を活性させ、言葉をなめらかにし、人を健康に保ち、豊かな知性を育てます。  
朗読を楽しみ、クールになりましょう。  
参加費なし、効果絶大です！



## みんなの広場

### 3.11 からまる4年

シスター小沢

間もなく 3.11 からまる4年になります。傷ついた大地・家・人はその後どうなっているのか、これからどうなるかとしているのかをお知らせつもりでした。

ところが私自身に思いがけないことが起こって、南相馬を1カ月も離れてしまいました。まずそのことからお話したいと思います。

私は昨年暮れの28日（日）に「フィッシャー症候群」と診断されました。珍しい病気でギランバレー症候群の亜型。何もしなくても2週間でよくなってしまふ人もいれば、お金をかけて治療しても後遺症が残る人もいます。

神経内科に行ってください、ということでした。その先生は脳外科の先生でした。翌29日（月）に近くの神経内科に行きましたが、もう休診でした。仕方なくかかりつけの内科に行くと、「これは神経内科が診る病気だから、内科に来られても困るんですよ。」と言いながら、「できるだけことはしてあげましょう。」と言って点滴を1本打って下さいました。

この病気は先ず物が二重に見えるようになり、翌日には一人で立ち歩くことができなくなってしまい、この日は3日目で、もう起きてはいられませんでした。この先生は、「この病気は2週間入院して治療する病気ですよ。」とおっしゃいました。それでなくても医療者不足の南相馬では、入院して治療をしてもらえるあてもありません。内科医のシスターに電話したところ、調べてくれて、「東京には明日30日にも救急外来で神経内科をやっているところがあるから来られない？」と言ってくれました。それで、知り合いにお願いして、車で東京の病院まで連れてきてもらいました。幸い、その病院が受け入れて下さり、31日から血液製剤のグロブリンを1日400cc、5日間連続で点滴して下さいました。その後は毎日リハビリ。

私は幸いにも「ツテ」があったので、東京に出て治療を受けることができましたが、もしツテのない人だったらどうなったのだろうか？もし神戸にいたら、大きな病院もたくさんあり、どこかが拾ってくれたかもしれない・・・人口7万人、実際には住民票だけおいたまま、よそに避難している人々が1万人以上と言われている被災地の小さな市が直面している医療事情。すぐに改善できるわけもなく・・・どうぞ医療面でも改善されるようお祈りください。

私はおかげさまで、物が二重に見える「複視」はだいぶ改善されてきました。また、歩く方も、お手洗いも一人で行けるようになりました。少しでも早く全快して、被災地に戻れるようお祈り下さい。

昨年は3.11に東京四谷のイグナチオ教会と南相馬の同慶寺を同時中継で結んで追悼集会があり、南相馬では、その後、海へ行って祈りました。今年はどうするのでしょうか。ベースからは、夜、駅を流された山元と亘理へ行き、竹とうろうで飾られた祭壇の前で、星空に向かって「サルベ・レジナ」を歌いました。今年もしようね、と12月に話していました。

また、昨年原町教会は、原発に一番近いカトリックの教会として、「3・15\*の集い」をしました。今年もする予定です。1日目は仙台で、2日目は原町で、と企画しているようです。よろしかったらご参加下さい。

\*福島第一原発で最後の爆発が起きた日

## イエス、マリア、ヨセフ

3月25日は何の日？ 答えられない信徒はまずいないだろう。それでは、その前の3月19日は？

「イエス、マリア、ヨセフ、永遠の憩いを迎える恵みをお与えください」。

1日の終わり、就床の時にする祈り。ミサ奉献文に、「おとめマリア」の次に「聖ヨセフ」が加えられたのは、2014年11月1日であった。

「ヤコブの子はマリアの夫ヨセフである。キリストと呼ばれるイエスは、このマリアからお生まれになった。」(マタイ1:16)。

「イエスの母マリアはヨセフと婚約していたが、同居する前に、聖霊によって身籠もっていることが分かった。」(マタイ1:18)。

「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアを妻として迎え入れなさい。彼女の胎内に宿されているものは、聖霊によるのである。」(マタイ1:20)。

「ヨセフは眠りから覚めると、主の使いが命じたとおりに、彼女を妻として迎え入れた。マリアが男の子を産むまで、ヨセフは彼女を知ることはなかった。」(マタイ1:24)。

「ダビデ家とその血筋に属していたヨセフも、すでに身籠もっていた許嫁のマリアを伴って、登録のために、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へと上って行った。」(ルカ2:4)

「その子を産着にくるみ、飼い葉桶に寝かせた。宿屋には、彼らのために場所がなかったからである。」(ルカ2:7)

「そして、彼らは急いで行き、マリアとヨセフ、そして飼い葉桶に寝ている乳飲み子を捜しあてた。」(ルカ2:16)。

「起きよ。幼児とその母を連れて、エジプトへ逃げよ。」(マタイ2:13)

「ヨセフは起きて、幼児とその母を連れてイスラエルの地に帰った。」(マタイ2:21)

「夢の中でお告げを受けたので、ガリラヤ地方に逃れ、ナザレという町に行ってそこに住んだ。」

(マタイ2:22~23)

「それから、イエスは両親とともにナザレに下って行き、二人に仕えてお暮らしになった。」(ルカ2:51)

「これはヨセフの子ではないか。」(ルカ4:22)

ヨセフのその後は杳として分からない。ダビデの子孫というから当時では名門であったろう。大という八公熊公だが、当時の「大工」は立派な技術者で、屢々その地の顔役でもあった。

聖堂の後に聖ヨセフの御像がある。嘗てブラウン神父がドイツから取り寄せたもの、ドイツでは知られた聖像作者の作だと聞いた。この御像はもともとこのような位置に置くものではない、身の丈より高いところに置いて仰ぎ見るための像である。仰ぎ見るとき、イエスの肩に手を置いて起立する聖ヨセフ、それは一家の長の姿ではないか。家庭とは、家族とはどういうものか。教会の暦にはただ「聖ヨセフ」とだけ記されている。(聖書の引用はフランシスコ会訳)

毎月教会報に原稿を送る。自分の思うことを書くだけだからノートしておけばよいのだが、他人様の目に触れるものとなればそれなりの心構えが必要で、ときには「カテキスム」のご厄介になることもある。改まって自分の思いをひと様に話す機会は滅多にない。皆さんも是非ご利用を。編集者にはお気の毒だが仲間内に免じていただく。(ヨハネ 三好)

わが家の植木鉢のコスモスが、冬を越し、つぼみがふくらみつつあります。春には白いコスモスが咲くでしょう。

プチトマトの公演が3月にあります。今までみんなで作り上げる「聖劇」(キャスト:マリア、ヨセフ、大天使ガブリエル、天使の声、独唱、星、博士1、博士2、博士3、羊飼ひ1、羊飼ひ2、羊、公演2012年12月16日)、「嵐の夜があけて」(キャスト:宿屋の娘ニコ、お父さん、お母さん、料理人ユナ、隣の子ルル、ネネ、王女、乳母ヨネ、教育官タリム、その息子チノ、役人ケリオ、公演2013年3月10日)、「夜空の星のように」(キャスト:ヤヨイ、ユウコ、フミコ、ニャーロック、カエデ、モミジ、山田捜査員、道しるべ、謎の夫人、公演2014年3月9日)を観劇させていただきました。

どうか、きれいなコスモスを咲かせてください。

(MAYA702)

## 命の神秘

今年の復活祭は昨年より早く4月5日。灰の水曜日から四旬節が始まり、聖なる過ぎ越しの三日間は頂点となります。受難を通して、死から生へと過ぎこす出来事の中に命の神秘を感じます。私たちの存在意義、生きる意味の本質が隠れているように思えてなりません。

『死して生きる』この『どんでん返し』が人間存在の真実のように思えてなりません。『どんでん返し』にこそ神の働きかけがあり、神の手を感じずにはいられません。

このことから、自分の都合や自分の立場からものごとを眺めたり、考えたり、判断するのは間違いだと気付かされます。只ひたすら、神に帰するしかないのだと思います。

死から生命へ移られるキリストの過越の神秘を通して、私は命の神秘に与って生かされていると感じます。

(J.Y.)



## 終の棲家—「仁豊野ヴィラ」訪問

1月に「一粒会(いちりゅうかい)」の会議が姫路市にある仁豊野(にぶの)教会ヨゼフ館で行われ、私も大阪教区神戸地区代表として参加しました。2時間にわたり今期の決算見直し、来年度予算やその他報告事項について審議しました。

その後、昨年一粒会が修復の一部を負担した「仁豊野ヴィラ」(高齢司祭施設)を訪問しましたが、ここには現在長年にわたり宣教や信徒の為に働かれた神父やシスターが終の棲家として住まわれており、開設以来15年が経っています。その間に延べ60名の神父がここで過ごされました。現在、神父22名、シスター2名が住んでおられますが、多くは要介護者で要介護3以上が4割弱、元大阪教区の大司教様もここにおられます。環境は非常に素晴らしく、建物内も清潔で、私も老後はこんな所で生活したいなど正直思いました。何人かの神父にもお会いし、その都度「本当に永年お世話になりました。ゆっくりお過ごしください。」と労いの言葉をかけさせていただきました。また我が教会で働かれていたシスター佐藤も、現在、生活者のお世話係りとして働いておられます。

(蛭田)

仁豊野ヴィラ



ホール兼食堂



Sr. 佐藤



### 堅信式のお知らせ

神戸東ブロックの合同堅信式は、5月24日（日）10時、神戸中央教会で行われます。堅信の秘蹟をお受けになっていない方で堅信をお望みの方は、3月15日（日）までに教会事務室までお申し出ください。準備会の日程などを後日お知らせします。



### 四旬節を迎えて

高山 親 神父

教会は2月18日に「灰の水曜日」を迎えました。ミサの中で司祭が一人一人の頭に灰をかけて、「回心して福音を信じなさい」（または「あなたはちりであり、ちりに返っていくのです」）と促します。万事の用意ができ、快くちりに返っていけるならなおさらのことですが、そうでなければ、回心して福音を信じ、死を通して復活されたキリストのいのちを豊かに生きるように四旬節を過ごしましょう。

#### 1. 福音という良い知らせ

イエスは神の国を宣教する前に、「荒れ野の中を『霊』によって引き回され、四十日間、悪魔から誘惑を受けられた」（ルカ 4: 1-13）。私たちが福音を受けるために身を引き締め、神に心を回すようにします。そして、改めてキリストの教えを聞き、キリストのなされた御業を見つめ、積極的に秘蹟に参加することによってキリストのもたらされた福音の喜びを味わうようになります。「御旨を行うことは私の心の喜び」となります。

祈りの生活を深めながら、自分の利己心や無関心に気づき、勇気をもってそれを断ち切り、キリストの心に近づくようになります。

## 2. 福音を信じること

イエスの述べ伝える福音を受け入れ、「あなたの信仰は、あなたを救った」というように、完全な信頼と清い心をもって福音を信じます。それは、人間の理解、知性、自分の努力などによるのではなく、神の無償の賜物を素直な心で、その善い知らせを受け入れるようにします。これは、「神は、その独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠のいのちを得るためである」(ヨハネ 3:16)。イエスを信じることによって、御父の愛を受けるようになり、御父の永遠のいのちに預かることとなります。

無条件に神から愛された信仰体験を人々と分かち合う時、私たちは「一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに痛み、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶ」(コリント 12:26)、「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るようになる」(ヨハネ 13:35)

## 3. 福音を信じることは聖霊の賜物

十字架をとおして「友のために命を捧げた」イエスの救いの業によって、罪の奴隷から神の子となり、神の霊によって私たちは「アッバ、父よと呼ぶことができ、神の子どもとなり、しかも、キリストの共同の相続人となります。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受ける」(ローマ 8:15-17) こととなります。

かつて、弟子たちが自分の罪を認め、復活から生きられたキリストのいのちと、約束された聖霊の賜物を受けるように、私たちも日々の祈り、節制、そして愛の業をもってキリストと共に死に、復活の栄光の喜びをこの世に証しすることができるようになります。一人一人、また、その家族や教会が、霊の結ぶ実「愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制」(ガラテヤ 5:23) に溢れるようになります。



## ＜四旬節のお知らせ＞

3月6日(金) 10時 十字架の道行と初金曜日ミサ

3月13日(金) 10時 十字架の道行

3月20日(金) 10時 十字架の道行

3月27日(金) 10時 十字架の道行き

十字架の道行は、中央協議会出版の「十字架の道行」を使用します。



## ＜聖週間の典礼＞

† 受難の主日 3月29日(日) 10時のミサで枝の行列を行います。

3月28日19時と29日7時30分は簡単な入堂で枝の祝別を行います。(通常ミサ形式)

† 受難の水曜日 4月1日(水) 聖香油ミサ 11時 カテドラルにて

† 聖木曜日 4月2日(木) 主の晩餐のミサ 19時

最後の晩餐を記念して洗足式を行い、仕え合うことの大切さを教えられます。

聖体安置場でお祈りなさる方は9時までといたします。

† 聖金曜日 4月3日(金) 主の受難の祭儀 19時

キリストの受難と死を思い起す受難の祭儀、十字架礼拝が行われます。

† 復活徹夜祭 4月4日(土) 復活徹夜祭ミサ 19時

死から命へと過ぎ越したキリストを盛大に記念し、洗礼式が行われます。

† 復活の主日 4月5日(日) 復活の主日ミサ 7時30分、10時

特に聖なる過ぎ越しの三日間〔4月2日～4日〕は教会典礼上の頂点であり、私たちの

信仰生活と主の救いの業をあらわす最も大切な祭儀です。私たちの救いのために十字架に

かけられたキリストの死と復活を思い、できるだけ参加しましょう。

なお、朝7時のミサはありません。

典 礼 部

教会報4月号の発行は、4月5日(日)です。

編集会議3月29日(日)です。

記事原稿は、3月22日(日)正午までに信徒会館

受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会  
〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21  
電 話 078-851-2846  
F A X 078-851-9023  
発行責任者 アルフレド・セゴビア  
編 集 広 報 部